

2026 年 1 月 5 日

日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～江東区の小学校で出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、出前授業への協力等に取り組んでおります。

12 月 16 日（火）、日本海事広報協会と協力し、江東区立数矢小学校の 5 年生約 120 名を対象に、海運に関する出前授業と船長講話を行いましたので、その模様をお知らせします。

第 1 部では、海運の概要について、自動車産業と海上輸送の関わりを軸に授業を行いました。

海に囲まれ資源の少ない日本は、エネルギーや工業製品の原材料、食料品の多くを輸入していることを、クイズを交えて説明しました。そうした日本の貿易量の 99%以上を海運が担っていることを知った児童は、日本には海運が欠かせないことを実感してくれた様子でした。

続いて、自動車部品の原材料の多くは海外から船で輸入していることや、運ぶものに応じて、ドライバルク船、原油タンカー、コンテナ船、LNG 船等、様々な種類の船があることを紹介しました。完成した自動車は、効率よく、安全に、大量に運べる「自動車船」で運んでいることを説明し、船内での荷役風景を動画で視聴してもらいました。



様々な船種を紹介する様子

第 2 部では、当協会 海事人材部の木村船長による船長講話を実施しました。

冒頭、事前課題としてグループごとに考えてきた「日本から米国東岸/欧州への自動車船の航路」について、代表の児童数名から、自分たちの考えた航路について発表がありました。「有事の際にすぐには陸に行けるよう、陸の近くを通るようにした」

『Marine Traffic』（世界中の船舶の位置情報を見られるサイト）を見て、船がたくさん通っている場所をなぞった」等、どのグループもよく考えて航路を検討していたことがわかる発表でした。船長からは模範解答として、スエズ運河とパナマ運河を通る航路が示されました。木村船長が実際に撮影してきた、船がパナマ運河の閘門を通過する映像に、児童たちは釘付けでした。



航路を発表する児童

その後、船上での生活や、航海士と機関士の仕事内容等について船長講話を実施しました。中でも、船員は Wi-Fi 完備の個室が与えられること、バスケットボールのコートやトレーニングルームがあることについて、写真を交えて紹介すると、児童からは「おお～！」という歓声とともに大きな拍手が起きました。「船上では、文化や言語が異なる様々な国の人と一緒に働いている。チームワークがとても大切」と語る船長に、児童たちは真剣に耳を傾けていました。

質疑応答の時間には、多くの手が挙がり「女性の船員は何人くらいいるのか」「船では酔わないのか」「どういう思いで船員の道を選んだのか」等の質問が出ました。授業後に、船長のところにやってきて個人的に質問をする児童もあり、船員職に興味をもってくれた様子でした。



船内の生活を紹介する様子



船長に質問する児童

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう引き続き活動を展開してまいります。

以上